

Title	執筆者紹介
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1963
Jtitle	史学 Vol.36, No.4 (1963. 12) ,p.113(533)- 113(533)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19631200-0113">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19631200-0113</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ーナリストとして活躍された博士のみが能くなしうることである。

紙面に限りがある上に浅学の身ゆえ博士の龐大な論旨をじゆうぶんに述べる事が出来ないのは遺憾であるが、イスラムの真の姿は、平和の宗教である。ゆえに今後もイスラムは人類と共に発展するであろうという本書の結論は斎藤博士二十有余年の机上・实地にわたる深く広いイスラム研究の結晶である。

わが国のイスラム研究は第十八世紀初頭の新井白石を鼻祖に、明治に入つてはタウンゼント訳註永峰秀樹重訳の『閱卷驚奇暴夜物語ものがたり』1875、ハンフリー・プリドウ著林董訳補『馬哈默伝』1876など洋書の翻訳から始まり、第二十二世紀に入つてようやく学術的な研究に着手された如くで、社会思想の研究などまだまだ先のことであろうと思われていた。この秋にあたつて博士が文字通り学界空前の八八〇頁に及ぶ大著を発表されたことは古い伝統を持つ西洋のイスラム学でも未だ及ばない大事を成しとげられたもので、誠によろこばしい限りである。今後博士が得意とせられる専門の分野において更に第二、第三の巨弾を放つて学界に輝きをまされんことを切に期待する次第である。

昭和三十九年四月五日発行

八八〇頁 定価二千八百円

執筆者紹介

前嶋	信次	慶応義塾大学文学部教授
伊藤	清司	同 専任講師
米田	治	同 専任講師
高橋	琢二	同 塾監局教務部勤務
太田	次男	同 附属研究所 斯道文庫専任講師
渡辺	宏	郁文館高校教諭